

# 令和4年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校)

目指す学校像	新しい時代を切り拓く たくましく 創造性豊かな実践的技術者を育成する
--------	------------------------------------

重点目標	1 自らの針路を定め、進路実現を果たすに必要な共通教科並びに専門分野の学力と体力を育む 2 主体的・協働的に課題解決に取り組み、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる 3 地域との連携を深め、地域に開かれた教育課程の実践をとおして、信頼される学校づくりに取り組む
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	14名

学校自己評価						
年度評価(1月31日現在)						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<b>【現状】</b> ・生徒はやさしく穏やかであり、授業も円滑に行われている。 ・進学者が増加傾向にある。 <b>【課題】</b> ・進学希望者をはじめ、継続教育に対する生徒の高い志を育成する必要がある。 ・共通教科並びに専門分野を深化させ生徒の学習意欲をさらに高めるとともに、確かな職業観を育成する必要がある。 ・学科間連携を推進し、学科を越えて生徒が互いに交流し学び合う機会を提供する必要がある。	・進路実現100%に向けたキャリア教育の実践  ・共通教科並びに専門分野の学力と体力の向上を図る授業改善	①生徒に好奇心や達成感を抱かせる課題や学習内容、学習方法等を工夫し、各学年において生徒が自ら針路を定められるよう段階的な進路指導を実施する。  ①ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを引き出す授業に取り組むとともに指導と評価の一体化を目指した教材の作成や授業改善を実施する。	①生徒の進路意識の向上と進路実現に向けた取組により、生徒アンケートにおいて、進路未定者数が前年度より減少したか。  ①教員アンケートから、ICTの活用状況と各教科において作成した教材の共有が前年度より向上したか。	①生徒の授業アンケートでは、普通科目は74.5%、専門科目は68.1%の生徒が「授業に満足」と回答しており、前年度より、普通科目は3.0%、専門科目は2.9%増加した。 ②進路指導部では、計画的・系統的に3年間を見据えた進路説明会を計画実施できた。就職は、111名中102名が第1希望企業の内定率は92.0%であった。前年度より9.4%増加した。2回目の受験で6名が合格、3名は進学に進路変更した。今年度も就職内定率100%であった。進学は、126名中中大学が52名、短大が2名、専門学校が72名であった。進路未定者は1名で前年度より2名減少した。 ③各学年で、Google Classroomを活用し、基礎学力の向上につなげた。また、授業映像の配信を行い、ICTを積極的に活用した。 ④教務部が中心となり、ICT研修会「7/19学習者用個人タブレット端末の活用について」、「10/13指導者用端末研修会」を開催した。	A
2	<b>【現状】</b> ・挨拶・身だしなみ・清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。 ・コロナ禍において、部活動や生徒会活動などが、制限内で主体的・協働的に行われている。 <b>【課題】</b> ・生徒一人一人を高校生活に目標を持って前向きに取り組ませる必要がある。 ・資格取得やコンテスト等へのチャレンジ、部活動や生徒会活動など生徒主体の活動を支援するとともに、自校に誇りを持って取り組ませる必要がある。	・生徒の心身の成長と規範意識の向上  ・資格取得やコンテストに向けた指導と部活動や生徒会活動等による体験活動、地域交流・ボランティア活動等の充実	①組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等を実施する。  ①資格取得やコンテスト等に関する情報を積極的に提供し、資格取得等に向けた特別講座等の実施や部活動、生徒会活動、地域交流・ボランティア活動等を通して生徒の多様な体験活動を支援する。	①遅刻・欠席者数が前年度より減少したか。また、生徒の挨拶、身だしなみ、清掃など、基本的な生活習慣の状況が前年度より向上したか。  ①資格取得やコンテスト等に取り組む生徒数、部活動・生徒会活動の取組状況、地域交流・ボランティア活動への参加状況が前年度より向上したか。	①教員と保護者の協力のもと、あいさつ運動や声かけ運動を行った。元気に挨拶をする生徒が多く駐輪マナーもよい。生徒の挨拶や身だしなみは良好である。 ②体育祭は保護者に公開して開催、工業祭は来場人数を制限し、生徒の家族4名及び中学生とその保護者に公開した。部活動、生徒会活動などは、制限内であったが体験的・協働的に実施した。また、保護者への実習公開や授業公開等は、感染予防を徹底して開催した。 ③埼玉県高校生専門資格等表彰では65名が表彰となり、前年度より10名増加した。「高校生ものづくりコンテスト埼玉県大会」では化学分析部門1位、2位、3位の結果で関東大会に出場した。国家資格の「第一種電気工事士」に20名が合格するなど高い目標に果敢にチャレンジする生徒が増えた。	B
3	<b>【現状】</b> ・地域と連携した教育活動が行われている。 ・日々の教育活動をホームページ等により情報発信している。 <b>【課題】</b> ・地域社会との連携を強化し、地域に開かれた教育課程を推進する必要がある。 ・HPの更新頻度を向上させる等、本校の魅力ある情報の発信に積極的に取り組む必要がある。	・地域社会と連携した教育活動の実践  ・学校ホームページの更新等による積極的な魅力発信と情報発信	①地域自治体や企業、大学等と連携した取組を積極的に実施する。  ①ホームページに日々の教育活動を積極的に発信し、保護者や中学生のニーズに沿った、きめ細やかな情報提供を行う。	①地域社会等との連携先や取組数が前年度より増加したか。  ①保護者アンケートによる学校への満足度が前年度より向上したか。	①コロナ禍の中、「SDGsアクションフェスタ」や「かわごえ産業フェスタ」、「かわつキッズまつり」、「まるひろ文化祭」、「新河岸わくわくフェスティバル」などへの参加、地元企業と連携した文具の商品デザインやアップサイクルバックの製作等、地域や企業と連携した取組を積極的に実施した。  ①各学年の学年だよりや保健室だより、長期休業前の生徒指導部からのお知らせを発行している。保護者アンケートでは、「川越工業高校に入学して、充実している」と94.1%の保護者から回答があり、前年度より1.8%増加した。 ②学校ホームページを積極的に更新し情報発信に努めた。	A

学校関係者評価	
実施日 令和5年2月2日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
①生徒の授業アンケートでは、約8割の生徒が「授業に満足」と回答し、意欲的に取り組んでいることがわかる。先生方の丁寧な指導が、生徒の学習意欲を高めているものと思われる。	②進路状況は、就職・進学ともに前年度より、第1希望企業の内定率や大学進学者数が増加し、進路未定者も前年度より減少しており、生徒の進路意識の向上と生徒が自ら針路を定められるよう段階的な進路指導が実践されている。
①Google Classroomを活用した授業配信や教材配布等は、コロナ禍における学習保障に大きく役立つと思います。	②教務部が推進しているICTを利用した授業改善については、教職員が共有しながら一層の推進を図っていただきたい。
①登校指導に立ち合い、あいさつ、身だしなみは生徒によってまちまちであると感じた。昨今の個人主義意識の高まりもあると思いますが、あいさつは大事なことと考えます。気持ちのいいあいさつ習慣が皆に定着することを願っています。	②コロナ禍の中、感染予防を徹底し、体育祭や工業祭等の学校行事を保護者に公開し、実施できたことや保護者への実習公開や授業公開を実施できたことは、生徒の成長になったと思います。楽しく取り組んでいる生徒の様子に安心しました。
①ものづくりコンテストの上位入賞や難関資格に合格者を出していることは、生徒に高い目標に向かって努力することやチャレンジすることを日々の学校生活で指導しているからこそだと思います。各専門教育の充実とともに志や職業意識の向上に向け、今後も指導していただきたい。	
①「SDGsアクションフェスタ」などの取組に初めて参加して、特別なことだと実感した。コロナ禍の中、地元企業、地域や社会と連携した取組を今後も積極的に推進していただきたい。	②保護者アンケートにて、「川越工業高校に入学して、充実している」の質問に94%が肯定的な回答をしています。この数字は極めて高く、学校への信頼度の表れと考えます。
①ホームページはトピックスも多く、見る側にとっても興味深いものが多いと思います。ICT教育部を作るといことで、楽しみにしています。	